

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成19年11月29日(2007.11.29)

【公開番号】特開2006-300122(P2006-300122A)

【公開日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-043

【出願番号】特願2005-119364(P2005-119364)

【国際特許分類】

F 16 H 57/02 (2006.01)

【F I】

F 16 H 57/02 301D

【手続補正書】

【提出日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

接合面を有し、前記接合面に開口する第1の油路が形成された第1の部材と、

第2の油路が形成され、前記第1の油路と前記第2の油路とが連通するように前記接合面に接合される第2の部材と、

前記第1の油路と前記第2の油路との間を封止する環状シール部材と、

油路に流れる油量を絞る油量調整部材とを備え、

前記第2の部材には、前記第2の油路の経路上であって前記接合面に隣り合う位置に、収容部が形成されており、

前記収容部には、前記接合面に接触する前記環状シール部材と、前記環状シール部材に對して前記接合面とは反対側に位置決めされた前記油量調整部材とが配置されており、

前記油量調整部材は、前記環状シール部材と、前記収容部を規定する前記第2の部材の壁面との間で挟持され、

前記第1の部材および前記第2の部材が当接する面を含む平面と、前記油量調整部材および前記第2の部材が当接する前記壁面とが向い合う、油路構造。

【請求項2】

前記環状シール部材は、Oリングであり、前記油量調整部材は、ワッシャである、請求項1に記載の油路構造。

【請求項3】

前記第1および第2の油路には、電動機に供給される冷却油が流される、請求項1または2に記載の油路構造。

【請求項4】

前記平面は、前記壁面に平行に延在する面である、請求項1から3のいずれか1項に記載の油路構造。